

高収益作物等生産拡大基盤整備プロジェクト

KPI (2020年) 累計260ha ▶ (2025年) 累計980ha

野菜等の高収益作物の裏作導入拡大を図るため、暗渠排水整備や区画整理を実施する事業に着手した面積



- 主食用米の需要が毎年減少傾向にある中で、農業経営の安定化を図っていくためには、需要に応じた適正な米生産を推進するとともに、農業産出額の増加に向け、野菜や果樹等の高収益作物の導入を促進していくことが重要です。
- また、県産の野菜は供給力の強化が求められていることから、露地野菜等の生産拡大を図っていくため、汎用性が高く裏作導入が可能な水田を確保するとともに、意欲ある担い手の規模拡大や新たな企業的経営体等の参入を促していく必要があります。

- このため、GISにより、排水性や土質状況等から裏作導入が可能な区域を選定し、暗渠排水等の基盤整備により、野菜の高品質化と生産拡大を図り、農業産出額の増大を目指す「高収益作物等生産拡大基盤整備プロジェクト」を推進します。

●水田の汎用化



森町 水田3倍活用



レタスのトンネル栽培



レタス



トウモロコシ



②農地集積・集約化を加速化する基盤整備の推進

- 農地は、食料を生産するための重要な基盤ですが、工場用地、宅地等への転用や荒廃農地の拡大により農地面積は減少傾向にあり、2020年の本県の農地面積は、10年前と比べて8,036ha減少し、6万2千haとなっています。
- 今後、高齢農業者のリタイアが見込まれる中、更なる農地面積の減少を食い止めるためには、優良農地の維持・保全を図り、担い手に農地を集積・集約化していくことが必要ですが、生産基盤の整備が十分でない農地は、担い手が借り受けられない恐れがあります。
- このため、市町や農地バンク（農地中間管理機構）と連携し、農地の集積・集約化を加速化するため、区画整理や用排水整備等の農業基盤整備を進めていきます。

山崎地区（掛川市）



都田地区（浜松市北区）



矢部地区（静岡市清水区）

